数学オリンピック、本戦に二人出場

世界の多くの国々の、算数・数学が好きな生徒（高校生以下）を選んで、コンテストを通して生徒を励まし、その才能を伸ばすために、毎年七月に国際数学オリンピック（ＩＭＯ）が一九五九年より各国持ち回りで行われています。

日本からも、一九九〇年の第三一回ＩＭＯ中国大会より、毎年選手六名が派遣されています。

この六名の選手を選ぶための日本国内でのコンテストが日本数学オリンピック（ＪＭＯ）で、毎年一月に予選、二月の本選、三月の春合宿を行って、選手が選ばれます。（中学生を対象としたＪＪＭＯも実施されています）

今年二月、日本数学オリンピック予選に本校の一、二年生一八名が参加し、見事二年生（現三年生）の金澤大地君と土田繋君が予選を突破し、本選に出場しました。秋田県からの本選出場は一〇年ぶりとのことで、とても素晴らしい結果に校内も大いに盛り上がりを見せました。

数学者になりたい

金澤　大地

僕は数学が好きで、中二で高校数学をやって、初めてＪＪＭＯを受けた。数学は、悩んでいた問題が別解だと簡単に解けたりするところが面白い。将来は、数学の秋山仁先生のように、数学のおもしろさを大勢に伝えられる数学者になりたい。

将来は数学の道へ

土田　繋

ＪＭＯの本戦は四時間で五問。集中力が途切れることはなかったが、難問ぞろいで、自分の数学力の未熟さが悔しかった。この経験を糧に、数学力を向上させ、豊かな発想力を身につけたい。将来は数学の道へ進みたいと考えている。

卓球部

全県総体では最高の結果を

卓球部　主将　加藤祐也

私たち卓球部の目標は、全県総体で優勝してインターハイに出場することです。また個人でもそれぞれ目標があり、それを達成するために毎日短い時間でより高度で内容の濃い練習を心がけています。選手と先生が一緒になって考え、工夫し、心と技術の向上に努めています。新年度に入ってからは部員も増え、活気が出てきました。最近の試合では、全県新人優勝、また東北選抜で五位に入賞し、十九年ぶりの全国選抜出場を果たしました。地震の影響で大会は中止になってしまいましたが、自分たちの成長を実感し、自信をつけることができました。また、上位大会に出場し試合したことで、新たな課題もたくさん見つけることができました。それを全県総体までに克服していきたいと思います。全県総体まであとわずかです。三年生最後の総体で有終の美を飾れるように、この残り少ない期間で心・技・体の全てを万全にして最高の状態で試合に臨みたいと思います。皆さんの期待に応えるためにも、自分の目標を達成するためにも、この夏最高の結果を出したいと思います。

14年間連続4強以上に

卓球部　顧問　伊藤則和

卓球部は昭和二十三年に発足し、今年で六十四周年を迎えます。創部以来、全県総体での団体優勝は六回。また、世界選手権で団体・ダブルス・混合ダブルスに優勝し、現在国際卓球連盟副会長を務められている木村興治氏や、全日本選手権のダブルスで優勝し、数年前まで秋田銀行頭取を務められた新開卓氏など、輝かしい足跡を残された先輩をたくさん生みだしています。このような伝統と実績を誇る部ではありますが、実は、この間の大部分は部員不足・戦力不足に泣かされ続けてきました。それは秋高運動部の宿命であり、仕方のないことだとは思っています。しかし、我々は絶対に勝負を諦めないことを貫き通してきました。実際この十四年間、戦力的に本当に苦しい年が何度もありましたが、ベスト四以上を一度も外したことはありません。どれだけ敗北を重ねても、次こそはと常に虎視眈々と優勝を狙い続けてきました。現在は久々に戦力が充実し、五年ぶり七度目の優勝をねらって力を蓄えるべく日々鍛錬を積み重ねているところですが、三月には大変に残念なことがありました。全県新人で優勝して二月の東北選抜に駒を進め、そこで戦力の充実している他県の私学に勝ち十九年ぶりの全国選抜出場を決めたのですが、東日本大震災により大会中止の憂き目に遭ったのです。天災であり、まだ余震が続き原発の不安もある中で、たくさんの犠牲者・消息不明者や避難所生活を余儀なくされている人がいる状況下では中止という結論は致し方のないところではありましたが、全員で勝ち取った久方ぶりの全国選抜出場がなくなった悔しさは強く残りました。しかし我々は、その悔しさをエネルギーにして、是が非でも全県優勝するために全精力を傾けて「心・技・体・智」を磨きあげるべく努力しています。今後とも、同窓生諸先輩の御指導・御協力をよろしくお願い申し上げます。